

# AERO. qc II

エアロ・キューシー・ツー

## ラウドネス・レベル・コントローラー



ラウドネスレベルのリアルタイムコントロールユニット

生放送以外にも、ニュースサブ・サーバー送出(再放送等)の各素材のレベルコントロールを行います。

AERO.qcIIはラウドネスレベルを抑えるだけでなく、サーバー送出(過去の素材)番組や番組素材の聴感レベルを保つため、聴感レベルの低い素材に対してはAGC(オート・ゲイン・コントロール)機能を使ってレベルフォローします。

### 制作現場で

スタジオ・中継車内・ニュースサブ等にAERO.qcIIを配備し、制作段階でラウドネスレベルコントロールを行うことにより、オペレーターは制作者サイドの意図に沿ったダイナミクスコントロールをリアルタイムにモニター確認しながら、視聴者に制作意図を詳細に伝えることができます。

### マルチ(5バンド)プロセッシング

マルチ(5バンド)プロセッサーを使用し、最小限の処理時間(16ms)できめ細やかなオーディオプロセッシングが可能

- LowBass :20Hz-60Hz/MidBass:30Hz-200Hz/
- LowMid:170Hz-1.15kHz/HighMid:950Hz-6.1kHz
- Brilliance:5.2kHz-24kHz





# AERO.qc II ラウドネスレベルコントローラー

## スペック:

### AES インプット・アウトプット

75 Ω BNC タイプ; 8メインインプットは 75 Ω インターナルターミネーション

8メインアウトプットのシグナルレベルは SMPTE 276M/AES-31D-2001

### HD/SD-SDI (SMPTE 292M/259M)

デ・エンデベット, エンデベット 16 音声チャンネル SDIシグナルに変換. 75 Ω BNC コネクター 1080i, 720p フォーマット互換

### プロセッシング・アルゴリズム

AEROMAX engineを使用したITU-規格 マルチバンドラウドネスコントロール  
ステレオ→5.1UPMAX(アップマックス).

### プロセッシング・ディレイ

プロセッシングタイムは16 msec ( PCM in → PCM out (全てのモードで), 1 msec から 100 msecの  
間で調整可能

### シリアルメタデータインプット

9-pin Dコネクター, 115 kbps, pin-out per SMPTE 207M (RS-485); プロトコル per SMPTE  
RP2020 メタデータ specification and is Dolby compliant

### GPIO ポート(外部制御)

25-pin D コネクター。0-5V TTL レベル。アップミキシング、オーディオスイッチング等に使用。

### 電源仕様

100-264 VACオートタイプ 消費電力 40 W max. 2重化電源.

### サイズ、重量

2U ラックサイズ- (89 x 483 x 533 mm)

重量 (2.72 kg); 出荷時重量 (3.63 kg)

### 動作環境

電源投入時 0 ~ 50 °C、保管状態 -20 ~ 70 °C、結露なきこと

AERO.qc, AERO.one, AERO.air, AERO.pro, UPMAX, Linear Acousticおよび“LA”シンボルはリニアアコースティック社の登録商標  
です。

all other trademarks remain the property of their respective owners.

